



子供を慈しまれる座主猥下(12月1日天台宗一斉托鉢にて)



発行所  
比叡山時報社  
〒520-0116 大津市坂本本町4220  
電話 077-578-0001  
振替 00970-2-9732  
宗教法人延暦寺事務所  
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報

叡山講福聚教会  
会報  
年度会費(3000円)中  
に会報(比叡山時報)  
購読料を含む。

令和元年比叡山から  
発信する言葉  
永劫に照らし続ける  
照統  
永劫



こちらから

ご購入は

修行に励む北嶺回峰行者が、千日回峰行をしている姿をご覧になったことがあると思う。浄衣に蓮華笠を戴き行者杖を持ち、小田原提灯を持って夜の山中を廻っているのだが、行者さんになぜ今時、提灯を持って歩くのかと尋ねたところ、提灯というのは、蠟燭の火はすぐ燃え尽きるし、ぶついたりすると提灯ごと燃えたりする。しかしあの提灯から灯される灯りは懐中電灯とは違い、足元の周り全体を照らすので一番歩きやすいとのことである。

提灯には提灯の特徴があり、松明には松明、電灯には電灯、日光には日光のそれぞれ特徴がある。我々の持っている明りも同様で、人それぞれにいろいろな灯りがある。そしてそれは良いところもあり、悪いところもある。だからこそ皆でそれぞれ灯しあうことが大切なのである。

ところで、天台宗の展開する「一隅を照らす運動」が、この度発足五十周年を迎え、去る十一月二日から四日の期間、延暦寺において「照隅祭」と銘打ち様々なイベントが行われた。大書院BOOKSTORE、釈迦堂スペシャルライブなどをはじめ、他にも色々なイベントが開催、盛況のまま幕を閉じたのは記憶に新しいところである。

その照隅祭のポスターの中には「一隅とは、今私たちがいるその場所であり、私たち一人一人が、自身の置かれている場所や立場で、ベストを尽くして照らす。」と書かれている。ひとりひとりがそれぞれの場所自分たちの灯せる限りの灯りを照らすことが大切だということである。仏教では、仏の教えや智慧、仏そのものを光と表し、その光は遍く世界を照らすとされるが、この言葉はそれを表現しているとも言えよう。

令和の御代も師走を迎え、十二月一日には天台宗恒例の全国一斉托鉢が各地で執行された。比叡山麓では森川宏映天台座主猥下が先頭に立ち、坂本界隈の方から多くの浄財をお預かりした。お一人おひとりの暖かな光だ。誠に有り難い限りである。

「一隅を照らす運動」は発足五十周年の節目を迎えたが、今後も全国の天台宗寺院をはじめとして様々な取り組みを通して御心の敷衍に努めていかねばならない。自身が一隅精神を保ち、一隅を照らす人材を育てることが宗祖への報恩に他ならないのである。

一隅を照らす運動発足五十周年

# 一隅を照らす運動五十周年

## 国宝的人材で世界を浄仏国土へ

### 自身が輝き社会を明るく照らす

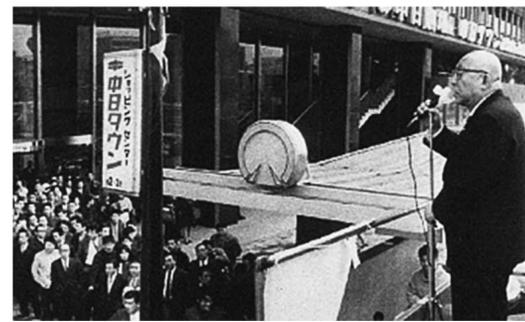
天台宗「一隅を照らす運動」総本部(大樹寺)会長・森定慈仁(総本部)長が提唱・実践する「一隅を照らす運動」が本年活動五十周年を迎えた。それを記念し、今特集では、同運動50年の歩みと、去る11月2日から4日まで開催された「照隅祭」、また5日に執り行われた記念式典の様子を報告する。

#### 経済偏重で混迷する社会 祖訓の実践で人づくりに貢献

敗戦後の荒廃から奇跡す運動推進の宣言文を、的なる復興を果した昭和30年代、我が国は年平均30%の成長を遂げる高度経済成長期を迎える。これは、伝教大師千五百活は経済の偏重によって、十年大遠慮を迎えるにあ心置き去りに混迷を始たり、宗祖伝教大師の「これ則ち国宝なり」との祖訓を人々が実践すること、そこで天台宗では、昭訓を人々が実践すること、和40年(1965)に滋賀院門跡にて開かれた勸学集会で議決された「照も、同案は同年6月20日「一隅運動」の展開、また、比叡山上延暦寺会館、同年寛永寺にて採択された関東信越地区布教師協議会「一隅を照らす」

#### 伝教大師を現代に活かす 全国に広まる「一隅を照らす」

翌日、(宗務所)長会議「一隅を照らす」が開かれるにあり、第1会議では総本山延暦寺を二百五十一世天台座主(総本部、事務局を天台宗真淵閣下より「仏教の」務所に置き、地方本部は振興を図るため始められ、各宗務所、その際宗務所一隅を照らす運動を中心長が地方本部を兼ねることに審議・決定すること組織体制が決定さ



初代会長今東光(春聰)師による説法の様子(天台宗務所提供)

#### 一隅を照らす運動 「実践3つの柱」

生命 あらゆる命を大切にしよう  
奉仕 みんなのために行動しよう  
共生 自然の恵みに感謝しよう

#### 延暦寺会館で記念式典開催 運動50年の歩みを振り返る

大樹寺会長「若い力に期待」



一隅を照らす運動五十周年記念式典が、去る11月5日、延暦寺会館で、全国の天台内外関係者約200名出席のもと執り行われた。



杉谷顧問による記念講演の様子

同日、同理事長の杜多道雄(天台宗)副理事長、副理事長の小堀光實(延暦寺)執行、副会長の島井信吾(サンリーホールディングス)株

一隅を照らす運動発足五十周年を記念し、11月5日の記念式典をもち、幸い、魔事なく終えることができました。日頃より一隅を照らす運動に対しての支援、ご指導、ご協力、ご厚意、まことに、心より、御礼申し上げます。

中が便利になればなるほど親と子の繋がりが弱くなる。仲間の繋がりが弱くなる。最も大事な心の繋がりが弱くなる。薄くなってきている。と感じているのは私だ。

純妙法門門主による「一隅を照らす五十周年」に思ふことと題した記念講演が行われ、自身が天台宗宗務局長時代に同運動理事を務めた運動二十

#### 実践3つの柱を指針に 国内外の支援活動も実施

以来50年、現在は天台宗務所に総本部を置き、「実践3つの柱」を指針として、人それぞれが自身を輝かせることにより、自立支援、インドの孤児院や学校へ支援、タイやインドへ教育里親制度を推進。一方、地域環境美化や地球温暖化防止のため、植樹活動などを「地」球環境保全活動として実施する等、国内外の自然災害や紛争被災者・難民の救援・支援活動なども積極的に行っている。

#### 比叡山上で「照隅祭」を開催 大書院と延暦寺会館で体験型イベント

西塔ではコラボ演奏とアート作品展示



2日に行われた大阪桐蔭高等学校と高橋まこと・梶原徹也両氏とのコラボ演奏



延暦寺会館では朝ヨガ(写真右)と念珠作り体験等が行われた



落ち着いた空間で読書を楽しむ



法華堂に展示されたアート作品



大人気のキッチンカー

#### ビジネスにおいての一隅精神 見えないものに光を当てる

一隅を照らす運動副会長・サンリーホールディングス株式会社副会長



この度、一隅を照らす運動が五十周年を迎えられましたこと、誠にありがとうございます。

「一隅を照らす」の目的は、「より良きものを作り続けること」です。それは先人の確立したハウの歴史をしっかりと継承し、新しい創意工夫を重ねていくことです。そのためには「見えないものを見つめる」ことが必要です。

「一隅を照らす」という言葉は、教える高橋まこと(延暦寺)が中心でした。元より比叡山は学舎のため山であり、また、道心を受け、お山において、学生たちが、熱心に取り組んでいる。

鳥井信吾自身もマスターブレンド(ウイスキーをブレンドする最高責任者)として「ものづくり」を追求し、平成16年(2004)には日本のウイスキーを世界の頂点に導いた。



インドにあるパンチャ・メッタ子どもの家(天台宗務所提供)